

STAND UP TAKE ACTION (スタンド・アップ テイク・アクション)

主催：動く→動かす

共催：国際連合広報センター (UNIC)



国際連合広報センター

協力：なんとかしなきゃ！プロジェクト



なんとかしなきゃ！
見逃ごせない——55歳人

後援：外務省、公益社団法人ガールスカウト日本連盟、一般社団法人グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク、独立行政法人国際協力機構 (JICA)、公益財団法人世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会、公益財団法人日本ユニセフ協会、日本労働組合総連合会 (連合)、パルシステム生活共同組合連合会、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟、教育協力 NGO ネットワーク

助成：立正佼成会一食平和基金、連合・愛のキャン

参加企業・組織

【学校教育関連機関】神戸市立六甲アイランド高等学校、横浜雙葉高等学校、京都府立東稜高等学校、東京都立町田高校、洗足学園、同志社中学校、岩手県立大槌高等学校、関西学院大学、関西学院中学部、フェリス学院大学ボランティアセンター、ほか

【民間団体】財団法人大分県文化スポーツ振興財団、財団法人仙台国際交流協会、財団法人青森県国際交流協会、財団法人自治体国際化協会市民国際プラザ、公益財団法人岩手県国際交流協会、日本化学エネルギー産業労働組合連合会、東燃ゼネラルグループ労働組合、丸岡ロータリークラブ、神奈川県宅地建物取引業協会横浜北支部、検垣バレエ団、ほか

【企業】アマタホールディングス株式会社、オリンパス株式会社 CSR 推進部、リコーエレメックス株式会社、リコークリエイティブサービス株式会社、リコーテクノシステムズ株式会社、リコー光学株式会社、リコージャパン株式会社、リコープリンティングシステムズ株式会社、リコーユニテック株式会社、株式会社リコー、東北リコー株式会社、大和リース株式会社浜松営業所、株式会社シーズクリエイティブ コミュニティデザイン部、NEC ソフト株式会社 CSR 推進部、英治出版株式会社、フェアトレードカンパニー株式会社、ほか

フォトコンテスト

【審査】

ユニークフォトコンテストの選考は、STAND UP TAKE ACTIONを主催する「動く→動かす」が行いました。ご当地フォトコンテストの選考は、以下の特別審査員と国際協力NGO代表者6人の審査員によって行われました。

特別審査員 今岡 昌子氏 (写真家) 1965 年横浜市生まれ。「Re・birth (再生)」をテーマとした写真の制作活動を行う。主な作品は、「Re・Birth —ガレキの隣のオンナたち」「中国之路 (天山南路 / 茶馬古道)」「トボフィア—九州力の原像へ」など。01 年 SSF 賞、02 年さがみはら新人奨励賞、07 年東川賞新人作家賞。審査員は、現在「読売写真大賞」、「南日本写真展」ほか。

審査員 西保彦氏 (関西国際交流団体協議会事務局長代行)、来住佳祐氏 (はっとけない熊本プロジェクト代表)、矢崎祐子氏 (ピース・ホープ・ジャパン広報グループ長)、渡邊清孝氏 (ハンガー・フリー・ワールド理事・事務局長)、吉岡達也氏 (ピースポート共同代表)、米良彰子氏 (オックスファム・ジャパン事務局長)

【ご当地スタンド・アップ フォトコンテスト賞品提供団体】

次の「動く→動かす」加盟団体の協力により、海外の民芸品、支援活動地の収入向上プロジェクト等で制作されているグッズ、紅茶、アフリカ音楽の CD、アクセサリー、スラムのアーティストが描いた油絵などを賞品として受賞者に贈呈しました。

特定非営利活動法人 DPI 日本会議、ピースポート、特定非営利活動法人 WE21 ジャパン、公益財団法人 ジョイセフ、特定非営利活動法人 アフリカ地域開発市民の会、特定非営利活動法人 グッドネーバース・ジャパン、特定非営利活動法人 かものはしプロジェクト、特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン、特定非営利活動法人 ACE、特定非営利活動法人 地球の友と歩む会、特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会

動く→動かす

もう一歩、貧困のない世界へ

「動く→動かす」とは？

ひとりの「動く」が集まれば、大きなうねりとなってやがて世界を動かします。意志をもって、行動すること

で、世界はきっと少しずつ変わっていくことができるのです。そんな想いを込めた民間非営利団体「動く→動かす」は、2009 年に発足した国際協力 NGO のネットワークです。2012 年現在 70 団体が加盟しています。また私たちは、ミレニアム開発目標 (MDGs) を達成して貧困問題を解決するために結成された世界に広がる市民社会ネットワーク (GCAP: ジーキャップ) において、日本の代表団体として活動しています。

STAND UP TAKE ACTION 活動報告書2012

【発行】動く→動かす

〒110-0015

東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル3階

特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会 気付

☎ 03-3834-6902 📠 03-3834-6903

✉ info@standup2015.jp

🌐 http://www.facebook.com/UgokuUgokasu

<http://www.standup2015.jp>



※表紙とp1の写真：10月8日に東京の国連大学前で行われた「国際ガールズ・デー」記念イベント「スタンド・アップ テイク・アクション 2012 ～ Girl's Impact —ガールが世界を変える～」第2部でダンスを披露する尚美ミュージックカレッジ専門学校 SHOBI DANCE CREW メンバー。p1 はそのダンス前に行われたスタンド・アップ。(写真は2枚とも UNIC Tokyo/Hiroaki Yamaguchi)。



動くことで 世界は 動かされる。

9億人以上が飢えに苦しみ、8億人が小学校に通えないまま大人になりました。

そんな世界の貧困問題を解決するために

2000年にミレニアム開発目標 (MDGs) が世界189カ国のリーダーたちによって約束されました。

しかし、開発途上国への資金、技術、人による支援はまだ不十分で

2015年にMDGsを達成することは非常に難しくなっています。

そんな状況の中で2006年にひとりひとりが参加できるグローバルアクションとしてはじまったのが“スタンド・アップ (STAND UP)”です。

毎年、国連が定めた10月17日の“世界貧困デー”前後に

貧困削減やMDGsの達成を強く求めて世界中で人々が立ち上がります。

2012年、日本では約2万6000人が立ち上がりました。

あなたのアクションは世界に問いかけます。

あなたのアクションは世界を動かします。

私たちだからできることを、MDGs達成のために続けていきます。



■国連ミレニアム開発目標とは？

ミレニアム開発目標 (MDGs: Millennium Development Goals) とは、極度の貧困に苦しむ人々の半減など具体的な数値目標と2015年という達成期限を定めた国際的な開発目標です。2000年9月に開かれた国連ミレニアム・サミットを経て制定されました。従来の途上国支援が経済成長と産業政策に焦点をあてたものであったのに対し、MDGsは人間とその生活を中心に据えた支援に重点が置かれています。またMDGsには、貧困解消のために世界が丸となって取り組むことを、世界のリーダーたちが人類史上はじめて約束したという大きな意義もあります。

■極度の貧困とは？

教育、仕事、食料、保健医療、飲料水、住居、エネルギーなど、人間らしく生きるために最低限必要な物やサービスが手に入られず、自力では貧困から抜け出せない状態を指します。極度の貧困は、劣悪な住環境、助かるはずの病気で命を落とす人々、不十分な教育、自信や尊厳の喪失などの問題を引き起こしています。



MDGs が目指すゴールとは？

貧困問題の解決に向けて、世界中で考え、行動し、変えていくために、8つの目標が定められました。その下には、より具体的な21の目標と達成度のめやすとなる60の指標が設けられています。



目標1
とてつもない貧困と
飢えをなくそう



目標2
みんなが小学校に
通えるようにしよう



目標3
ジェンダーの平等を
進めて女性の地位を
向上させよう



目標4
子どもの死亡率を
下げよう



目標5
女性が健康な状態で
妊娠し、子どもを
産めるようにしよう



目標6
HIV／エイズ、マラリア、
その他の病気が
広がるのを防ごう



目標7
環境の持続可能性
を確保しよう



目標8
世界の一員として、
先進国「も」責任を果たそう

*MDGs ロゴは、「(特活) ほっとけない 世界のまずしさ」が作成したものです。

STAND UPの歴史

- 2006年** 世界2354万2614人、日本2711人が参加し、世界一大きな同時アクションとしてギネス記録を樹立。
- 2007年** 世界4371万6440人、日本4万8205人が参加。ギネス記録を更新。
- 2008年** 世界1億1699万3629人、日本2万2698人が参加。ギネス記録を更新。
- 2009年** 世界1億7304万5325人、日本3万3497人が参加。ギネス記録を更新。
- 2010年** 5年に一度の「国連MDGsレビュー・サミット」直前に世界74カ国でアクションを実施。日本では1万8240人が参加。
- 2011年** 日本では3万1389人が参加。「動く→動かす」の呼びかけに応じて海外からも1712人が参加。(各国の状況に合わせて行うようになり、日本では10月1日～17日に実施しました。)

2012年
の企画

ご当地 フォトコンテスト受賞作品

地元やコミュニティの特色を活かしながら、世界の貧困問題の解決を求めて立ち上がる写真を募集しました。特に優れた11枚が受賞作品に選ばれ、1枚が特別審査員賞に選ばれました。
(ご当地フォトコンテストの審査に関しては裏表紙をご覧ください)

特別審査
委員賞
受賞



アジアの玄関口、福岡から

世界の架け橋となるのは若い私たちが！ 富田ゼミナールでは、世界の貧困について学んでいく中で知るだけでなくメッセージを発信していくと、「博多にわか」の面を模したせんべいを作る東雲堂の協力のもと立ち上がりました。

●福岡県／西南学院大学富田ゼミナール



安全な水が飲める世界を願って

「水の王国」富山より世界中で安全な水が飲めるようになることを祈り、モンドセレクション2012金賞を受賞した富山市のおいしい水道水とスタンド・アップ!!

●富山県／みーらくもん。



道頓堀の元気を世界へ

大阪の有名な看板といえば道頓堀にある「グリコ」の大きな看板。笑顔で手と足をあげて走っているその姿は、町を元気にしてくれます。これからも世界から貧困をなくすため、活動の輪を広げていきます。

●大阪府／大阪教育大学附属高等学校池田校舎 コネスコ部



新電波塔、スカイツリーから

日本から世界へ、様々なアイデアを発信したいという気持ちをこめて。多くの人々が集まる東京という場所は、人がつながり、励まし合い、協力し合うことによって問題を解決していく、無限の可能性を秘めています。

●東京都／動く→動かすボランティア



世界へ、ごきげんな毎日を

障害者雇用拡大に取り組む NPO 法人つくばグリチャレンジと、飢饉・貧困撲滅に取り組む学生 NGO 団体「Youth Ending Hunger 茨城」が協力。毎日を笑顔でごきげんに過ごすことは、すべての人たちのために当たり前であるはず!

●茨城県／Youth Ending Hunger 茨城



日本最古の天守閣から

丸岡城はとても小さいかわいなお城ですが、私たちはこのお城をととても自慢に思っています。坂井市の古き良き伝統や知恵を受け継ぎ、新しい世代を担う女性になるぞ!

●福井県／ガールスカウト福井県連盟第17団



飛騨高山の国史跡、高山陣屋にて

10年後20年後の世界が、平和な暮らしを取り戻し、教育を受けられる人がもっと増え、薬があれば治る病気で死ぬ人が減るよう、募金と呼びかけるなど私たちにできることを行動に移したいと思います。

●岐阜県／ガールスカウト岐阜県連盟第9団



訓練の合間、111人が参加

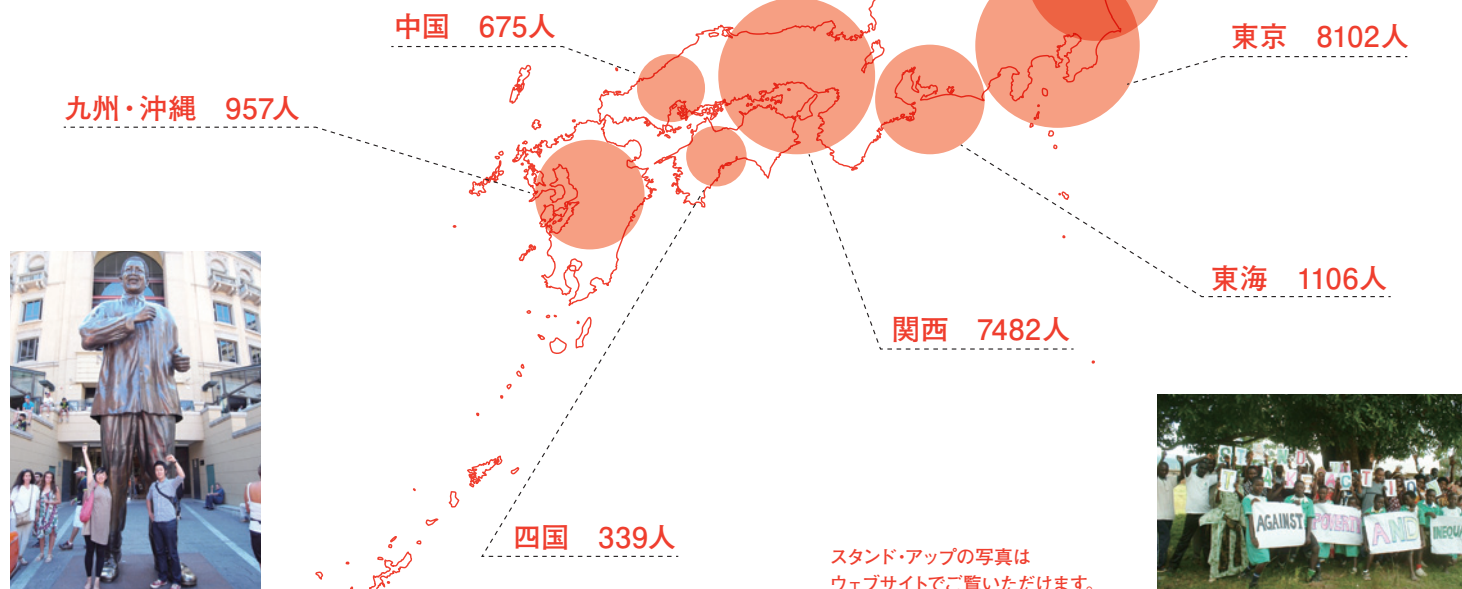
JICA 二本松では、青年海外協力隊員とシニア海外ボランティアの派遣前訓練を行っています。2013年1月に各地へ赴任していきますが、来年はそれぞれの国でスタンド・アップを続けていきたいと思います。

●福島県／JICA 二本松青年海外協力隊訓練所

日本の スタンド・アップ

2012
10月1日(月)~17日(水)

全国からさまざまな組織と個人、
2万6563人が貧困解決とMDGs達成を求め、
1110件のアクションを起こしました。
今年は特に大学生グループの活動が活発で、
アクションの件数は過去最高を
記録しました。



海外* 33件 3051人

*「動く→動かす」への報告分。
世界全体の参加者数は未集計。
国内と海外の合計は、1143件、
2万9614人です。

ネルソン・マンデラ氏とともに

指導者の一人としてアパルトヘイトに打ち勝ち、その後も HIV や貧困との闘いを続けるマンデラ氏と立ち上がりました。南アフリカの人々と協力して貧困解決に取り組みなが、格差社会の状況等を日本に発信します。

●南アフリカ／AMANDLA!



信楽焼のためきとともに

総合的な学習の時間に「共に生きる」というテーマで世界の人に目を向ける学習をしています。自分たちの文化も大切にしつつ、広く世界に目を向け、自分たちにできることを考えていきたいです。

●滋賀県／甲賀市立信楽小学校 6年



空高く飛ぶバルーンのように

私たちの MDGs 達成への強い願いも世界中に届け! という思いを込めて立ち上がりました。毎年11月頃開催されるバルーンフェスタには世界各国から参加者が集い、佐賀平野の秋空は色とりどりに美しく彩られます。

●佐賀県／認定 NPO 法人地球市民の会



アクションへの意気込み

自分たちで決めたことの達成に向けて何度でも立ち上がり、ジャンプします。地域の方々にもスタンド・アップについて知ってもらえる取り組みをしていきたいと思います。やったあ。

●千葉県／ガールスカウト千葉県第47団



現地の人々自らの手で

ワクソ県ナッケデ区で小学生を含めた住民の方たちと立ち上がりました。これからも農村地域の住民の方たちと共に、様々な活動を通して貧困や不平等と闘っていきたいと思います。

●ウガンダ／特定非営利活動法人
ハンガー・フリー・ワールド



みんなで祈りを捧げて

子どもたちが中心となった理解しやすいユニークな礼拝の中で、総勢200名以上が参加しました。日本の子どもたちが宣言書を読み上げ、理解し、立ち上がる。そんな日本の子どもたちのアクションに将来の力強さを感じます。

●東京都／日本聖公会 聖アンデレ教会

毎年
恒例

ユニーク フォトコンテスト受賞作品

写真そのものや企画のユニークさを審査して表彰するユニーク
フォトコンテスト。今年は 11 グループが受賞しました。



和(輪)気あいあいと

「Raise Your Hand ~ 世界の女の子のために手を上げよう」と題して女子教育推進をテーマにし、ピンクの服と教科書を持って約180人の学生と先生方に参加していただきました。

●埼玉県／東京国際大学



国を超えたハーモニー

貧困という問題は、誰か一人だけ、どこか一カ国だけの努力ではなく、多くの国とそこに住む人々の理解と協力が不可欠だと思います。留学生の集まりだからこそ世界の現状を伝える力があります。

●宮城県／財団法人仙台国際交流協会
せんだい留学生交流委員



想いを込めたジャンプで

世界の平和と貧困をなくしてすべての人々が幸せに生活できることを願い、「エネルギーにジャンプ!」して撮影しました。

●岡山県／リコージャパン株式会社
岡山支社 津山営業所



家族でほのぼのと

我が家の長男は、世界的なイベントへの参加をきっかけに、世界の貧困をなくすことを目指すコンテスト参加の意味を少しずつ認識しはじめています。

●福井県／Family Standup



人で伝わるように

東北から九州までグループ丸となって計150名で「STAND UP TAKE ACTION!」の文字を作りました。貧困削減に対して自分に何ができるかを考える良い機会になりました。

●京都府／アマタホールディングス株式会社



生き生きとした授業で

当たり前の生活とはなんだろう、ということを国際ゼミでは最初に考えます。ゼミ学習を通して、身近な事から世界とのかかわりを見つけ、世界の問題を身近な事として気付けるような人を目指しています。

●山形県／米沢市立第二中学校



歌声をアクションに

カンボジア貧困地域の小学生支援イベント参加者全員でスタンド・アップを行いました。今後とも歌いながら、貧困に苦しむ子どもたちの支援を続けていきたいです。

●神奈川県／サニーサイドゴスペルクラブ横浜
& ゴスペルスクエアファミリー



クラスみんなで作り上げて

学校が大切にしている「みこころ」の「心を開く」というイメージでシスター・先生方と共にクラス全員でハート型を創りました。立ち上がることで、少しでも世界の現状が良くなるようにこれからも祈り、行動したいです。

●静岡県／不二聖心女子学院高校1年梅組

STAND UP TAKE ACTION 2012に向けて実施した動く→動かすのイベント

※イベント報告は、『動く→動かす』ウェブサイト
の「最新情報」からご覧ください。

人々が「動く」ことを後押しするため、人々がつながり、刺激し合えるイベントを実施しました。

アドボカシー基礎講座&ワークショップ

- 6/30 講座第1回「世界の貧困とアドボカシー」
- 7/21 講座第2回「貧困を終わらせるための取り組みって？ ― NGOの活動を知ろう」
- 8/25 講座第3回「貧困のない世界を実現するための先進国の役割 ～私たちにできること～」
- 9/23 ワークショップ「ONE DAY, ONE ACTION ～あなたが動けば世界は変わる！～」

「MDGs って何?」「アドボカシー（政策提言や働きかけ）ってどんな活動?」「貧困削減のために何かしてみたい」そんな方々を対象に講座とワークショップを実施しました。たくさんの方に参加いただき、「MDGs 策定の経緯やその必要性がよく分かった」「いろいろな行動のアイデアが出て、いくつかは日常生活でもできそう」などの感想が寄せられました。またこれらのイベントは、4月に募集したイベント運営・企画ボランティアさんを中心に企画、実施されました。イベントの企画運営は初めてという方ばかりでしたが、回を重ねるごとにさまざまなことを学び、立案から広報、そして当日の運営まで、徐々にスタッフの手を借りることなくこなせるようになっていき、ボランティアさん独自の活動へと発展しています。



講師●稲葉剛氏（自立生活サポートセンター・もやい）、土橋るみ氏（ハンガー・フリー・ワールド）、三宅隆史氏（シャンティ国際ボランティア会）、城谷尚子氏（プラン・ジャパン）、堀江由美子氏（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）、平田仁子氏（気候ネットワーク）、山田太雲氏（オックスファム・ジャパン）、鈴木洋一氏（オックスファム・ジャパン）、稲場雅紀（動く→動かす）

ネットワーキングイベント

- 10/5 「スタンド・アップ テイク・アクション2012 ～私たちがつくる貧困のない社会」

貧困のない社会を目指して第一線で活躍する6人のゲストと交流し、参加者同士でもつながりを持てるイベントを開催しました。100人を超える参加者がゲストのトークを聞き、その後はゲストや参加者同士の交流時間。会場のあちこちで会話の輪ができていました。この時の出会いがきっかけとなった参加者同士の新たなプロジェクトの話も進んでいます。



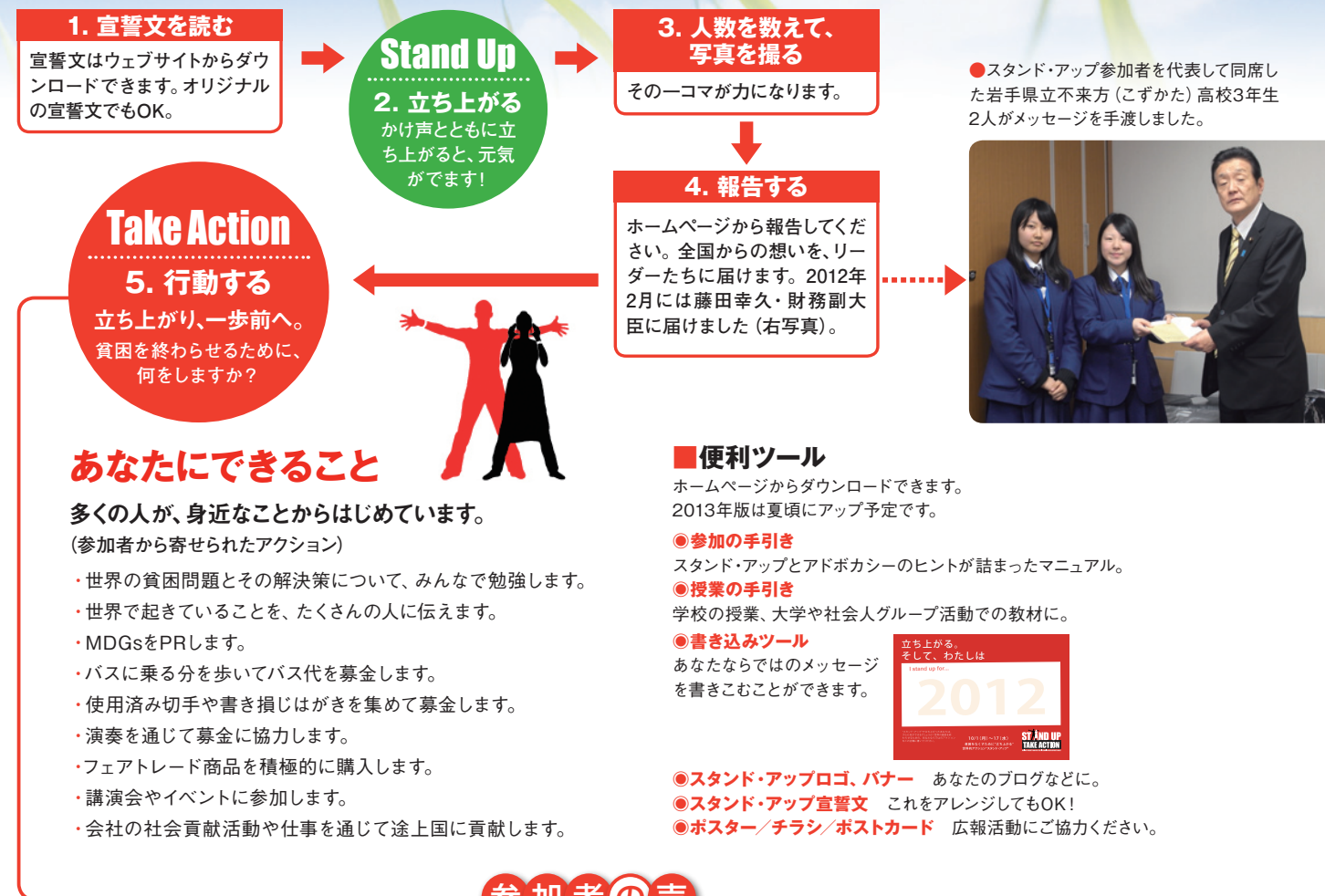
Photo: Naoto Masagaki

ゲスト●カンベンガ・マリールイズ氏（ルワンダの教育を考える会）、大野恵美子氏（国連食糧農業機関（FAO）日本事務所）、大崎麻子氏（Gender Action Platform）、安部敏樹氏（リディアバ）、佐野未来氏（ビッグイシュー日本）、稲場雅紀（動く→動かす）

今後も『動く→動かす』では、ボランティアや講座・ワークショップの参加者のみなさんが、自ら動き出すきっかけとなるようなイベントを実施していきたいと考えています。世界の貧困問題や途上国が直面する課題を解決するために何かしてみたい、ボランティアやインターンに興味があるという方は、『動く→動かす』事務局までお気軽にご連絡ください。

■スタンド・アップに参加するには

学校で、オフィスで、公園で。場所はどこでも構いません。世界貧困デーに向けた年に1回のアクションにあなたも参加しませんか。2013年のキャンペーン詳細は決まり次第、ホームページやメールマガジンなどでお知らせいたします。



●スタンド・アップ参加者を代表して同席した岩手県立不来方（こずかた）高校3年生2人がメッセージを手渡しました。



- スタンド・アップロゴ、バナー あなたのブログなどに。
- スタンド・アップ宣誓文 これをアレンジしてもOK！
- ポスター／チラシ／ポストカード 広報活動にご協力ください。

MDGs達成の鍵となる2013年に向けて

MDGs達成に向けた取り組みが始まってから12年。各国の政府から一般の人々までが多くの努力を重ね、次のような成果へとつながっています。

- ◆2010年の妊産婦死亡数は28万7000人で、1990年に比べて47%減少した。
- ◆5歳未満児の年間死亡数は1200万人（1990年）から760万人（2010年）に減少した。
- ◆1990年から2010年の20年間で、新たに20億人以上の人々が、改善された安全な飲料水源を利用できるようになった。

しかし、国や地域によって状況はかなり異なります。また、MDGsが目指すゴール全体をみると、今のままではMDGsの2015年までの達成は危うい状況です。途上国では依然として5歳未満の子ど

もの2割近くが低体重に苦しみ、栄養が不十分な人々の数は1990年からほとんど変わっていません。また、1億2200万人の若者は読み書きができず、スラムのような居住区に住む人々は8億6300万人にも上ります。

MDGs達成期限の2015年まであと3年を残すだけとなり、達成目標に向けさらに改善していくために2013年は重要な年となります。世界のリーダーたちへの働きかけが、2015年に結果を出す鍵となるのです。日本が国際社会における責務を果たせるよう、ぜひあなたも身近なところからつながり広めていける活動「スタンド・アップ」に参加して、MDGs達成を後押しする力になってください。

動く→動かす 代表 津山 直子